

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 245人

② 数学 245人

③ 理科 244人

5 留意事項

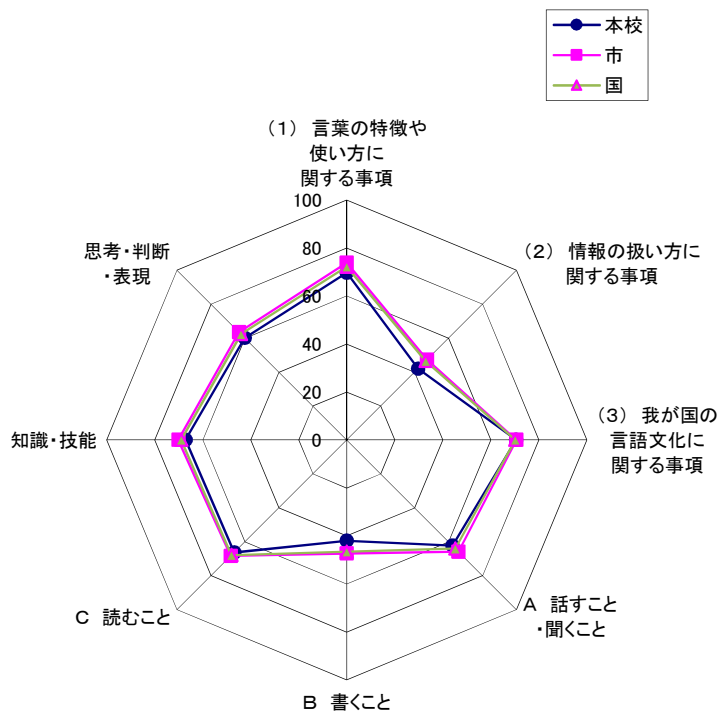
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.7	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	42.0	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	70.6	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	62.2	65.9	63.9
	B 書くこと	42.0	47.3	46.5
	C 読むこと	66.3	68.3	67.9
観点	知識・技能	67.2	70.2	69.0
	思考・判断・表現	60.2	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

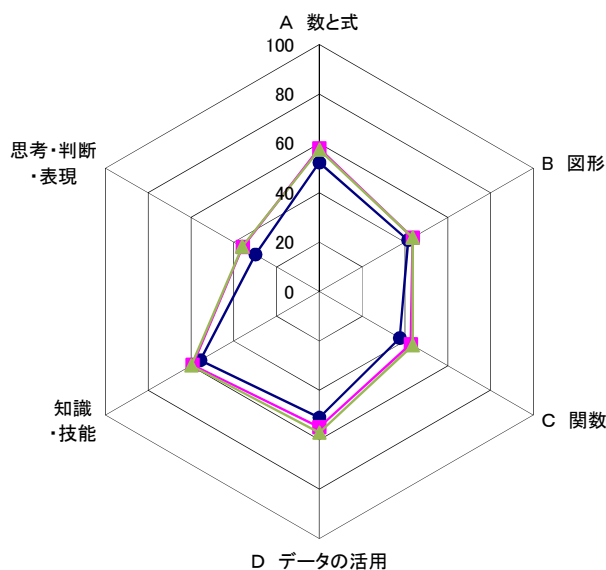
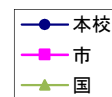
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○表現技法についてよく理解し、同じような表現を探し出すことができている。 ●ほとんどの問題において平均正答率が全国を下回っている。特に自分の考えを伝えるために工夫して表現する力が低い傾向にある。	・作文を書く活動に力を入れ、自分の意見を分かりやすく表現する力を身に付けさせたい。漢字などの知識を増やすために、小テストを実践していく。	
(2) 情報の扱い方に関する事項	●平均正答率が、県平均、全国平均を下回っている。無回答率が1割を超えている。	・上記と同様、書く力が必要になるため、作文の活動に力を入れたい。根拠を明確にするために、箇条書きのメモなどから、文を起こしていくなど、スモールステップから取り組ませたい。	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○行書の特徴をつかみ、調和した仮名の書き方が身に付いている。無回答率も低く、知識として持ち合わせている生徒が多いことが読み取れる。 ●読みやすい書き方については全国平均を下回っている。	・書写の授業において毛筆の筆運びや、書き順の違い、連続、省略などを、説明していく。	
A 話すこと・聞くこと	○論理の展開について、正しく理解している。平均正答率も全国平均を上回っている。 ●表現の工夫に課題を持っている生徒が多い。無回答率が20パーセントを超えている。	・無回答の生徒は、何を聞かれているか、どう答えるかが理解できないように考えられる。語彙を増やす活動で、類義語、対義語などの知識を身につけ、表現の幅を広げていく。	
B 書くこと	(2)と同問題のため省略	(2)と同問題のため省略	
C 読むこと	○登場人物の心情の変化を読み取ることができている。場面の状況を理解し、正確に答えることができている。 ●話の展開を取り上げて書くという問題に対し、正答率が低く、無回答率も高い。	・書くことに抵抗をもっている生徒が多いことが考えられる。状況の整理や、心情を表現する場を設けたい。	

宇都宮市立清原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	52.2	58.0	57.4
	B 図形	41.5	43.6	43.6
	C 関数	37.6	42.7	43.6
	D データの活用	51.0	54.9	57.1
観点	知識・技能	55.7	59.3	59.9
	思考・判断・表現	30.0	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

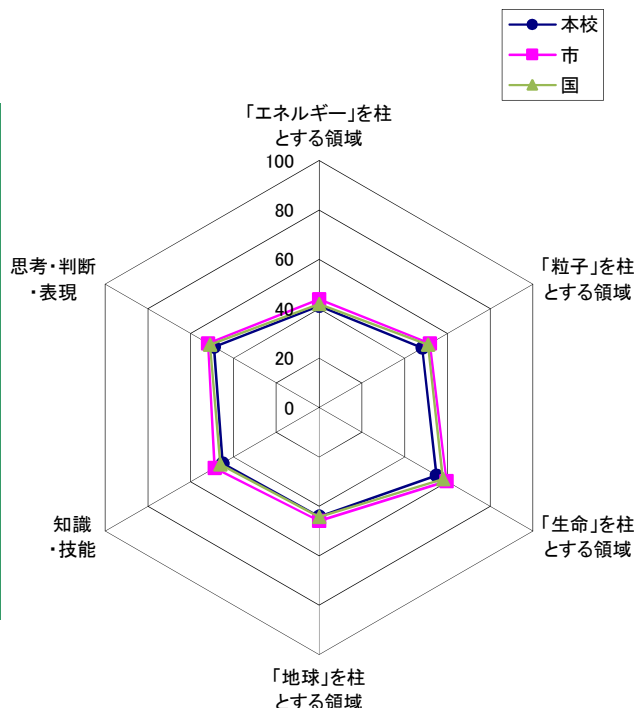
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成させる問題では、市・全国平均正答率を上回っている。 ●同じ偶数の和である式について、条件が設定されているときどのような計算を表しているかを書く問題では、市・全国平均正答率を下回っている。	・正負の数の計算や文字式の計算の時点でつまづいている生徒も少なくない。問題集や自主学习ノート等を活用し、計算の練習を継続的に行い、授業の中で単元テスト等を行い達成度が見えるようにしていく。また、振り返りシートを活用し、生徒自身が自分の弱点や傾向と向き合える機会をつくっていく。
B 図形	○証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題では市・全国の平均正答率とほぼ同じである。 ●∠ABEと∠CBFの和が30°になる理由を示し、∠EBFの大きさがいつでも60°になることの説明を完成させる問題では、市・全国の平均正答率を下回っている。	・図形の証明をできるようにすることが課題である。証明のゴールがわからず、どこから証明を始めればよいかという生徒も少なくない。単に、定義・定理を覚えるのではなく、その定理が成り立つのかを理解した上で、利用できるようにしたい。単に、長さや面積等を計算し、求めることだけに重きを置かず、定理を使う目的を正しく理解させる。
C 関数	○ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ問題では市・全国の平均正答率を上回っている。 ●変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ問題では、市・全国の平均正答率を大きく下回っている。	・表を完成させることはできるが、完成している表から分かることに気付いたり、分析したりすることができない。表や式を完成させるだけでなく、それぞれが何を表しているかを理解させ、いろいろな場面に活用できるような力を育てるようにする。記述も苦手なので丁寧に書く習慣を付けるとともに、発表させる機会を作る。
D データの活用	○平均正答率は市平均とほぼ同じである。資料の活用に関する知識を問われる問題では市・全国平均を上回った。 ●箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度についての選択問題では、市・全国の平均正答率を下回っている。	・箱ひげ図を利用するメリットとして、「データのばらつきを把握できる」「複数のデータを並べて比較できる」の2つがあげられる。今後は、箱ひげ図を活用する目的やメリットを理解し、読み取る力を付けつつ、学習を進められるようにしていきたい。

宇都宮市立清原中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.1	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	48.3	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	54.9	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	44.1	45.9	44.3
観点	知識・技能	45.1	48.8	46.1
	思考・判断・表現	49.1	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○日常生活で、静電気を帯びる状況を選択する問題の正答率が高かった。 ●ばねの縮む長さ、加える力との関係を表すグラフを選択する問題の正答率が低かった。実験をより正確に行うために、測定値をどう増やすか説明する問題の正答率が低かった。	・実験の結果を考察するために、グラフ化することが多い。実験をどのようにしたら正確な実験が行えるか、また、上手いかなかった場合には、何が原因か、どう改善すべきかを生徒に考えさせながら実験を繰り返し行い、正確な技能と思考力を身に付けさせたい。
「粒子」を柱とする領域	○実験の結果が考察の根拠として十分かどうか指摘する問題の正答率が高かった。 ●水素の燃焼を化学反応式で表す問題の正答率が低かった。水の電気分解で水素を取り出すとき、水の質量がどうなるかを選択する問題の正答率が低かった。身近な酸化熱の例を選択する問題の正答率が低かった。	・実験の考察をする際に、仮説を実証するに値する根拠を示して説明する習慣が身に付いてきている。今後も引き続き指導していきたい。 ・化学反応式を書くためには、化学式を覚えなくてはならない。また、質量保存の法則が成り立つように、式の左辺と右辺で原子の種類と数を等しくする必要がある。復習する機会を設けたい。
「生命」を柱とする領域	●ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの形状がなぜ異なるかを説明する問題の正答率が低かった。実験結果から、アリが視覚をもとに行列を作っているかどうかを説明する問題の正答率が低かった。	・「相同器官」については分かっているが、それぞれの生物がなぜ、器官の形状を変化させたかを一つ一つ考えることはない生徒が多い。身近な生物がなぜ、そのように進化したのかを探究させて理解を深めさせたい。
「地球」を柱とする領域	○気圧の観測データは標高で補正されることを説明する問題の正答率が高かった。 ●プレート移動によって地層が隆起することを説明する問題の正答率が低かった。露頭の観察から地層の傾きを求める問題の正答率が低かった。	・柱状図から地層の傾きを求める問題はよく出題されるが、正答率はいつも低い傾向になる。地層の広がりを三次元でイメージすることが難しいからである。立体模型やCG等を活用して、地層の広がりや、傾いているときの柱状図の特徴を理解させたい。

宇都宮市立清原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【基本的な生活習慣や生活態度に関する質問】

○質問事項「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」などにおいて、国や県の数値を大きく上回っている。引き続き家庭と協力しながら、規則正しい生活習慣の確立を図っていききたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」などにおいて、国や県の数値を大きく上回っている。引き続き、「いじめは絶対に許さない」という共通認識のもと、相談体制の充実を図っていききたい。

【学校生活全般に関する質問】

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「友達と協力するのは楽しいと思いますか」なども、国や県の数値を大きく上回っている。友人と楽しく学校生活を送り、すくすくと成長している生徒が多いことがわかる。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」などにおいて、国や県の数値を大きく上回っている。コロナ禍で地域学校園や生徒会の活動が制限される中、宇都宮学の学習などで地域社会への興味・関心が高まっていると考えられる。

【教科の学習に関する質問】

○各教科の学習に対する興味・関心は高い。また、学習内容を自分の生活や将来の進路に結び付けて生かしていこうとする意識も高い。

●「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」、「学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」、「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」などの回答における頻度に関する数値が低い。授業研究会や研修会などを通して、様々な実践例について学び、1人1台端末の積極的な活用につなげていきたい。

●「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」について、国や県の数値と比べて低い数値が出ている。本校生徒は、グループなどの話し合い活動に進んで参加している生徒が多いが、級友との対話を生かし、自らの学びを深めることができる段階にまでは至っていない。

宇都宮市立清原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・目標にむかってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成 ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主学习ノート」の運用と適切な家庭での学習課題の提示 ・AIDリルの活用 ・学校図書館の活用 ・ティームティーチング等の効果的な指導法 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、平日・休日ともに「全くしない」という回答が国や県の数値を下回っている。自主学习ノートを1日1ページ以上義務付け、細やかに指導してきた結果が数字に表れている。 ・「読書は好きですか」の肯定的回答も国や県の数値を上回っている。朝の10分間読書を推進し、学校図書館の活用を積極的に促した結果と思われる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えをまとめる」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」などの活動に苦手意識が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、「自分の考えを書く活動」と「話し合い」の活動を工夫して、自分の考えを再構築し、まとめることができる生徒の育成を目指す。